宮城県文化財調査報告書第十八集

埋蔵文化財緊急調査概報

―東北縦貫自動車道遺跡―

宮城県教育委員会

序

本県における東北自動車道の建設計画は、四二年に一部路線発表(福島県境から名取川右岸まで)があり、この路線敷にかゝる遺跡については、昨年試掘調査を実施し報告したところでありますが、今年は、昨年度に引続き名取川左岸より岩手県境に及ぶ約九〇キロの予定地域について既周知遺跡の確認と未発見遺跡の調査につとめた結果、数多くの遺跡を記録することができました。

また、設計の進んでいる仙台以南の地区においては、白石市越河の湯ノ倉館跡が損傷することが確実になつてきたため、地形測量、および試掘調査を実施しました。これらの結果を集録したものがこの小冊子です。今後の文化財の保護、活用のために、ご利用いただきたいものです。

なお、これらの調査にあたつては、炎天下、あるいは酷寒をものともせず卒先調査にあたられた委員はじめ、補助員各位、調査にご協力いただいた地元市町村教育委員会関係者の方々にも深く感謝の意を表します。

昭和四四年三月

宮城県教育委員会教育長　安倍辰夫

目次

東北縦貫自動車道周辺遺跡地名表……一

頁

仙台市……一
宮城町……一
泉町……一
富谷町……二
大和町……三
大衡村……四
色麻村……四
三本木町……五

頁

古川市……六
高清水町……九
一迫町……一〇
築館町……一〇
志波姫町……一〇
若柳町……一一
栗駒町……一二
金成町……一三

東北縦貫自動車道関係湯ノ倉館跡試掘調査概報……二五

東北縦貫自動車道周辺遺跡地名表

仙台市

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地	地目	地図	時期	遺跡遺物の概要・文献	地図番号
〇一〇二三	散布地	人来田遺跡	仙台市茂庭字人来田	畑地	仙台	縄文・弥生	標高九〇メートルほどの台地畑地にみられる遺跡で、縄文中期大木八式の土器、石器および弥生式（桝形）土器片が散布している。	1
〇一〇二四	散布地	綱木遺跡	仙台市綱木	畑地	仙台	縄文	谷間に開けた平地に石器の散布がみられる。	2

宮城町

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地	地目	地図	時期	遺跡遺物の概要・文献	地図番号
二一〇〇六	館跡	郷六館跡（どうろく）	宮城郡宮城町郷六字館	山林・田	仙台	近世	国道四八号線に面した丘陵の一角にあり、国分氏に関係のある居城として知られ、仙台古城書上にある。	4
二一〇〇七	散布地	屋敷遺跡	宮城郡宮城町郷六字屋敷	畑地	仙台	古墳	広瀬川の段丘上の畑地で土師、須恵器の破片の散布がみられる。	3

泉町

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地	地目	地図	時期	遺跡遺物の概要・文献	地図番号
一九〇〇九	館跡	長命館跡	宮城郡泉町上谷刈字長命	山林	仙台		風土記には「縦一二〇間、横九〇間」で、錦戸太郎の仮城とも伝えられている。	8
一九〇一〇	散布地	紫遺跡	宮城郡泉町根白石字紫	畑地	吉岡	縄文	標高八〇メートルほどの丘陵南斜面から縄文土器、石器片など出土している。	89
一九〇一一	散布地	筒畠遺跡（とうくま）	宮城郡泉町野村字筒畠	畑地	仙台		標高三〇メートルほどの丘陵南斜面に縄文土器、石器片など散布している。	9
一九〇一二	館跡	小岳館跡（おだけ）	宮城郡泉町小角字館	畑地・宅地	仙台		館主は古内近江長時といわれ西に空堀をもち南に土塁を築いた館である。	7

富谷町

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地	地目	地図	時期	遺跡遺物の概要・文献	地図番号
一九〇一三	館跡	古館跡	宮城郡泉町実沢字八乙女	畑地	仙台		現在西面と北の一部の土塁が残存している。館主は、八乙女淡路と伝えられる。	6
一九〇一四	館跡	山野内館跡	宮城郡泉町実沢	山林	仙台		この館は、かなり変改が加えられており、原地形を知るに困難である。大河戸氏（後の朴沢氏の祖）の居館で、のち山内須藤刑部が住む。	5
二五〇〇八	館跡	南橋館跡	黒川郡富谷町富谷字根崎一〇〇	山林	吉岡		天正年中に白石伊勢が居館したところと伝う	467
二五〇〇三	館跡	鹿鼻館跡	黒川郡富谷町穀田字丸森二	山林	吉岡		仙台古城書上にあり、遺跡台帳に象鼻館とあるのは誤り。	462
二五〇〇四	館跡	奈良木館跡（桜岡館）	黒川郡富谷町字奈良木沢下		吉岡		天正年中黒川安芸守一門の居館と伝う。	463
二五〇一一	館跡	熊野館跡	黒川郡富谷町太字吉成田字白鳥	山林	吉岡		天正年中浜田源兵衛の居館と伝う。	470
二五〇〇二	館跡	大童館跡	黒川郡富谷町大童字養禅寺	山林	吉岡		天正年中黒川安芸守の臣大童豊後が居館と伝う。	461
二五〇一四	一三塚	穀田一三塚	黒川郡富谷町穀田字石沢	山林	吉岡		山稜頂に直径一メートルほどの盛土の土まんじゅうが、一メートル間隔で一三基ならんでいる。	13
二五〇一五	経塚	穀田経塚	黒川郡富谷町穀田字石沢	山林	吉岡		山頂部に存在し、高さ一・五メートル、一〇×五メートルの長方形の盛土の経塚である。	12
二五〇一六	製鉄遺跡	下桜木製鉄遺跡	黒川郡富谷町板坂字下桜木	畑地	吉岡		山林と水田の間にある狭い平地に鉄滓、ふいごの羽口、土師器破片などがみられる。	11

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地	地目	地図	時期	遺跡遺物の概要・文献	地図番号
二五〇一七	製鉄遺跡	上桜木製鉄遺跡	黒川郡富谷町板坂字下桜木	畑地	吉岡		段畑の一部に鉄滓、ふいご羽口、内黒土師器片の散布がみられる。	10
大和町								
二三〇二二	散布地	相川堤防遺跡	黒川郡大和町落合相川堰根	畑地	吉岡	古墳	善川堤防北側の畑地でアイオン台風により堤防欠壊し発見された遺跡で、土師器、須恵器を出す。	457
二三〇二一	散布地	上ノ山遺跡	黒川郡大和町落合相川上ノ山	畑地	吉岡	古墳	善川に面した大松沢丘陵上の開こん地で、畑表面から少量の須恵器破片が出土している。	450
二三〇二〇	散布地	柴崎遺跡	黒川郡大和町吉岡字東柴崎	田	吉岡	古墳	吉岡柴崎部落の南の水田から、土師器、須恵器が出土する。もとこの付近には塚状の地形もみられた。	449
二三〇二九	館跡	鶴巣館跡	黒川郡大和町下草字迫間	山林	吉岡		丘陵の一部を利用して階段状に造築したもので、山林のため、旧態をとどめるところもある。	17
二三〇三〇		観音堂小塚群	黒川郡大和町下草字観音堂	山林	吉岡		丘陵中腹に直径二～三メートル、高さ五〇センチほどの小塚が八基ほど群在する。	16
二三〇三一	館跡	天神館跡	黒川郡大和町鳥屋字宙頭山	山林	吉岡		天神館と呼称されているが、戦時中防空陣地が作られ、館跡としての形状を見出すことはできない。	14
二三〇三二	館跡	要害館跡	黒川郡大和町落合松坂字要害	田・荒地	吉岡		丘陵上の館は、最近水田化され、わずかに出丸と堀の一部が残っている。	90
二三〇三三	館跡	御所館跡	黒川郡大和町蔵袋字宮下	山林・畑	吉岡		石神館とも呼ばれている。一部畑となっているが、土塁の原形のまゝ残っている部分もある。	18

大衡村

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地	地目	地図	時期	遺跡遺物の概要・文献	地図番号
二三〇三四	横穴古墳	別所横穴群	黒川郡大和町北目大崎日光山	山林	吉岡	古墳	黒川神社裏の凝灰岩層に二穴開口しておるが地形からみてほかにもあることが予想される	15
二六〇一五	館跡	屋敷跡	黒川郡大衡村奥田字下屋敷八	山林	吉岡	近世	館山とも称す。天正年間黒川安芸守の家臣細川弥次郎の居館したところと伝う。	487
二六〇一四	館跡	駒場館跡	黒川郡大衡村駒場字中里	山林	吉岡	近世	高さ二〇メートルほどの館で別名小城館、深井沢館ともいう。天正年中、児玉右近とその子惣九郎らが居館したところと伝う。	486
二六〇一三	館跡	打館跡	黒川郡大衡村大森字裏師堂	山林	吉岡	近世	高さ二〇メートルほどの館で長橋館ともよばれている。天正年間児玉安芸の居住した所と伝う。	485
二六〇一九	散布地	鎌研と裏遺跡	黒川郡大衡村大森字鎌研裏二九の一	畑地	吉岡	古墳	須賀神社の南の畑地には土師器、須恵器の破片の散布がみられる。	19
二六〇二〇	散布地	河原遺跡	黒川郡大衡村大衡字河原三八の二	畑地	吉岡	古墳	針分校の南西二〇〇メートル俗に三角山といわれる南斜面に土師器、須恵器の破片が多量に散布している。	20

色麻村

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地	地目	地図	時期	遺跡遺物の概要・文献	地図番号
三一〇二三	散布地	長島遺跡	加美郡色麻村大字長島南三一の四	畑地	吉岡	古墳	色麻村本町から、大衡村針に通ずる街道南の丘陵上の畑地には土師器、須恵器破片が散布している。	21

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地	地目	地図	時期	遺跡遺物の概要・文献	地図番号
三三〇〇二	館跡	桑折館跡	志田郡三本木町字桑折	山林	古川	近世	大崎の家臣渋谷相模の居館と伝えられ、天正一八年大崎氏の滅亡とともに廃城となる。	27
三三〇〇三	館跡	千貫森古館跡	志田郡三本木町字蟻ケ袋	山林	古川		標高六〇メートル、北側に鳴瀬川をひかえた要害で一の丸、二の丸なども判然と残っている。	30
三三〇〇四	古墳	八坂神社古墳	志田郡三本木町三本木字天王沢	社地	古川		地形からみて丘陵上の円墳と思われるが、現在頂部に八坂神社など建立され、原形を損じている。	28
三三〇〇五	館跡	斎田館跡	志田郡三本木町斎田字館野	山林	古川		桜館、指波館ともよばれている。前九年の役に安倍貞任の部将、安蘇吉春の拠ったところといわれ現在も、空堀、土塁の名残をとどめる箇所もみられる。	37
三三〇〇一	散布地	三本木山遺跡	志田郡三本木町三本木字南	山地	古川	縄文	鳴瀬川に面した台地上の縄文遺跡であるが、中学校の建設などで大部損傷している。	29
三三〇〇六	古墳群	花見山古墳群	志田郡三本木町斎田字花見山	山林・社地	古川	古墳	丘陵上頂に円墳が群集し、中に祠が建つものもある。	35
三三〇〇七	社地跡	延喜式内社敷玉早御玉神社跡	志田郡三本木町新沼	河川敷	古川	平安	以前は畑地であったが、最近河川敷に編入された。土師器などの出土もある。	33
三三〇〇八	散布地	多高田遺跡	志田郡三本木町多高田	畑地	古川	縄文	丘陵斜面の畑地に石器などかなり散布する地がみられる。	26
三三〇〇九	古墳	跡不見墳	志田郡三本木町音無	荒地	古川		安永風土記書上にも記載されている。平地の中央に盛り上げられた径二〇メートルほどの墳である。墳の性格不詳	23
三三〇一〇	建物跡	大門遺跡	志田郡三本木町秋田字大門	田	古川		単弁蓮花文などの布目瓦が出土しているが、出土地は平地であり、建物跡と思われる。	25

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地	地目	地図	時期	遺跡遺物の概要・文献	地図番号
三三〇一一	館跡	蛾ケ袋館跡	志田郡三本木町蛾ケ袋	山林	古川		鳴瀬川に面した館跡で城跡も割とよく原形をとどめている。	31
三三〇一二	館跡	音無館跡	志田郡三本木町音無	山林・墓地	古川		館山、館ケ森ともよばれる。頂上の四周には土塁をめぐらしてある状態を確認できる。	22
三三〇一三	館跡	伊場野館跡	志田郡三本木町伊場野	山林	古川		仙台領古城書上に記載されている古館だが館主など不詳	24
三三〇一四	館跡	坂本館跡	志田郡三本木町坂本	山林	古川		別名天神館ともいわれる。標高四六メートルの丘陵上に造られた館で仙台領古城書上にも記載されている。	32
三三〇一五	館跡	新沼館跡	志田郡三本木町新沼	畑地	古川		仙台領古城書上などにも記載されている館跡で、この館は自然の高まりをもつ地形を利用して平地に造られた館である。館主など不詳	39

古川市

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地	地目	地図	時期	遺跡遺物の概要・文献	地図番号
二七〇一一	古墳	青塚古墳	古川市大字塚目字屋敷一一八	畑地・宅地社地	古川	古墳	大崎平野のほゞ中央にある古墳で、現在は高さ五メートル直径六〇メートルの円墳であるが、周囲の状況からみて、長軸一〇五メートルの前方後円墳とも思われる。	501
二七〇一六	包含地	新田町遺跡	古川市大字宮沢字新田町五二の三	畑地	古川	弥生・古墳	宮沢中学校校庭西側にみられる遺跡で、弥生式土器（十三塚式）や、古式土師器などを出土する。	506
二七〇〇九	包含地	苔谷地遺跡	古川市大字長岡字苔谷地	田	古川	弥生	化女沼の南の地域から、石包丁の出土をみたが、現在の石包丁出土地としての最北限とみられている。	499

二七〇二三	包含地	北原遺跡	古川市大字長沢字北原一	畑地	古川	奈良	化女沼の北辺の畑から蔵手刀一振が単独出土した。	513
二七〇〇五	散布地	長者原遺跡	古川市大字長沢	畑地	古川	縄文晩期	化女沼北方の長者原から清水沢地域にかけて縄文時代晩期大洞A・Aの土器石器を出す遺跡がみられる。興野義一「江合川流域の石器時代文化」（仙台郷土研究一九巻三号）	495
二九〇一八	散布地	笹森遺跡	古川市清滝字笹森一五〇	畑地	古川	縄文前期	市の北端の台地上の臼子原地区が縄文式前期の（大木四式）遺跡を出す遺跡である。	58
二九〇一九	散布地	上前田遺跡	古川市清滝山田字北宮沢上前田西二八	畑地	古川	縄文前期	臼子原丘陵の西側斜面にみられる遺跡で、縄文前期（大木五式）の遺物を出す遺跡である	56
二九〇二〇	散布地	大谷地遺跡	古川市清水字三丁目大谷地	畑地	古川	縄文早期	成田大谷地の丘陵にある早期の遺跡で、縄文早期（素山下戸式）の遺物を出す遺跡である	53
二九〇二一	散布地	野崎遺跡	古川市山田字雨生沢野崎	畑地	古川	弥生	古川市宮沢より一迫町に至る県道西側丘陵にあり弥生式土器（天王山併行）を出す遺跡である。	55
二九〇二二	散布地	一本杉遺跡	古川市小林字一本杉	畑地	古川	弥生	宮沢小学校の西八〇〇メートルにある八幡神社境内を中心として弥生式土器（天王山式）片が散布する遺跡である。	40
二九〇二三	散布地	北馬場壇遺跡	古川市清水字三丁目北馬場壇	山林	古川	弥生	荒雄川の右岸丘陵上に位置する弥生式土器（大泉式、天王山式）を出す遺跡である。	54
二九〇二四	散布地	羽黒遺跡	古川市小野字羽黒	畑・原野	古川	古墳	小野羽黒山の丘陵上に土師、須恵器片がかなり広範囲に散布している。	45
二九〇二五	散布地	長岡針遺跡	古川市長岡針字成田	畑・田	古川	古墳	表杉ノ入式の土師器を出土する遺跡であるが開田によって湮滅した。	43
二九〇二六	散布地	淵尻遺跡	古川市淵尻字新田	田	古川	古墳	国道四号線の江合橋の東たもとにある遺跡で南小泉式の土師器を出す。	42

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地	地目	地図	時期	遺跡遺物の概要・文献	地図番号
二九〇二七	散布地	楡木遺跡	古川市楡木字梅屋敷	河川敷	古川	古墳	県道古川ー鹿島台線、敷玉橋のたもとにある遺跡で南小泉式土師器を出すが、新江合川の河川敷となつて湮滅したと思われる。	41
二九〇二八	散布地	柴樗遺跡	古川市師山字柴樗三	畑	古川	古墳	敷玉橋から師山に通ずる道路を七〇〇メートルほど南した畑地が遺跡で、開田の際土師器が出土した。	40
二九〇二九	散布地	下中ノ目遺跡	古川市下中ノ目字赤山廻一	校庭	古川	古墳	協和中学校建設の際に発見された遺跡で、土師器壺（引田式）などを出土した。	39
二九〇三〇	散布地	堤根遺跡	古川市堤根字下逆巻	河川敷	古川	古墳	現在鳴瀬川の堤防工事で湮滅したが、工事の際土師器（南小泉式）などが出土している。	36
二九〇三一	散布地	中沢遺跡	古川市中沢字新鹿島	河川敷	古川	古墳	中沢橋のたもとにある遺跡で、鳴瀬川の河川改修工事によつて湮滅した。南小泉式の土師器出土。	34
二九〇三二	散布地	一貫寺遺跡	古川市小野字一貫寺	山林	古川	奈良	国道四号線東側の丘陵に一貫寺跡と称する地がありここから古瓦が出土する。	44
二九〇三三	散布地	三輪田遺跡	古川市長岡字三輪田三二	畑地・宅地	古川	奈良	長岡丘陵の南斜面に安養寺跡と呼ぶ小丘がある。ここから古瓦が出土する。	47
二九〇三四	散布地	川熊遺跡	古川市宮沢字川熊長清八七	畑	古川	奈良	三輪田遺跡の西の丘陵南斜面に古瓦および、土師器、須恵器が濃密に散布している。	49
二九〇三五	散布地	杉ノ下遺跡	古川市小林字杉ノ下一六	畑	古川	奈良	荘厳寺北方の桑畑に最古式の重弁蓮花文鎧瓦などの古瓦が散布している。寺の入口近くに窯跡があるなど古瓦の散布範囲が広い。内藤政恒『多賀城古瓦草創年代考』（『考古学』一八巻一号）	51
二九〇三六	散布地	大吉山遺跡	古川市清水字三丁目道場大吉山	山林	古川	奈良	荒雄川の北岸の丘陵上にある竜興院周辺一帯から古瓦が出土しているので知られている。	52

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地	地目	地図	時期	遺跡遺物の概要・文献	地図番号
二九〇三七	散布地	姥沢、小高遺跡	古川市小野字姥沢小高	山林	古川	奈良	化女沼の東方約一キロ、丘陵南斜面にみられる古瓦出土遺跡である。	46
二九〇三八	建物跡	伏見宝量社境内遺跡	古川市大崎字伏見要害同 大崎字名生	田・畑	古川	奈良	伏見要害の旧宝量社跡には、土壇があつて、古瓦が出土しているため重視されていた遺跡であつたが最近、開田により破壊された。「宮城県史古代篇」	48

高清水町

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地	地目	地図	時期	遺跡遺物の概要・文献	地図番号
四四〇〇八	散布地	外沢田遺跡	栗原郡高清水町外沢田	畑地	湧谷	奈良	高清水町の中心街の東方約一キロ、外沢田の丘陵上にかなり広範囲にわたつて古布が散布する遺跡があり注目されている。	91
四四〇〇九	散布地	明官遺跡	栗原郡高清水町字小山田明官	畑地	古川	奈良	高清水町の中心街の西方約一・七キロの丘陵北斜面にある。遺跡は新堤北側の畑地にあり古瓦及び土師器須恵器などを出土する。	57
四四〇一〇	散布地	五輪遺跡	栗原郡高清水町字五輪一六	畑地・宅地	湧谷	縄文・古墳	町指定史跡五輪塔南の台地一帯が遺跡で、縄文式土器（前期）、石器および土師器、須恵器などかなり出土する。	92
四四〇一一	散布地	堤下A遺跡	栗原郡高清水町小山田西手取堤下	畑地・田		古墳	通称宗海壇とよばれる付近からは、土師器、須恵器の散布がみられる。	
四四〇一二	散布地	堤下B遺跡	栗原郡高清水町小山田西手取堤下	畑地		縄文・古墳	堤下A遺跡と堤をはさんで相対している。ここからは縄文式早期（素山上層式）の土器や土師器、須恵器の散布がみられる。	
四四〇一三	散布地	台町西遺跡	栗原郡高清水町字台町	畑地・田	湧谷	古墳	台町部落西方の畑地に土師器、須恵器片がかなり広範囲に散布している。瓦窯跡もあつたと伝えられている。	93

一迫町

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地	地目	地図	時期	遺跡遺物の概要・文献	地図番号
四五〇一九	散布地	妙教寺遺跡	栗原郡一迫町妙教寺	寺地	岩崎	縄文	石鏃土器片なども拾えたが開田によつて破壊されている。	60
四五〇二〇	散布地	妙円遺跡	栗原郡一迫町字妙円		岩崎	縄文	付近一帯からは、土器、石器など散布してみられたが開田により破壊されている。	63
四五〇二一	散布地	金矢遺跡	栗原郡一迫町字金矢		岩崎	縄文	同	61

築館町

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地	地目	地図	時期	遺跡遺物の概要・文献	地図番号
四一〇〇五	貝塚	嘉倉貝塚	栗原郡築館町玉沢字嘉倉六二	畑地	若柳	縄文	伊豆沼にのぞむ台地の突端にある、カラス貝などを主とする縄文晩期の貝塚である。嘉倉貝塚の西北六〇〇メートルほどの台地にある遺跡で、縄文式土器、石器などを出土する。	752
四一〇〇六	散布地	玉荻台遺跡	栗原郡築館町照越新田一九三	畑地	若柳	縄文	一本杉の山頂東斜面に大、小六基の古墳が群在する。これらの封土周囲にはすべて溝をめぐらしている。	753
四一〇二七	古墳群	御幣所森古墳群	栗原郡築館町上宮野白坂八四	山林	若柳	古墳	玉荻台遺跡の西六〇〇メートルの台地上にある遺跡で、縄文晩期土器、土師器などの細片が散布している。	62
四一〇二八	散布地	照越台遺跡	栗原郡築館町照越台一一六	畑地	若柳	縄文晩期 奈良		59

志波姫町

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地	地目	地図	時期	遺跡遺物の概要・文献	地図番号
四九〇〇一	散布地	竹内遺跡（たけのうち）	栗原郡志波姫町大字梅崎字北郷竹の内一三六の二	畑地	若柳	縄文	迫川の自然堤防上の畑地にある遺跡で、古く石鏃など採集できたという。	807

若柳町

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地	地目	地図	時期	遺跡遺物の概要・文献	
四九〇〇二	散布地	刈敷治郎遺跡	栗原郡志波姫町白幡字刈敷治郎	河川敷	若柳	縄文・古墳	迫川の改修工事によつて発見された遺跡で、縄文式土器（晩期）須恵器片などを出す。	808
四九〇〇三	散布地	狐塚遺跡	栗原郡志波姫町大字梅崎字北郷狐塚二八の一	畑地	若柳	古墳	狐塚囲、古戸囲、白山囲などの畑地より大量の須恵器甕、杯、壺などが出土している。	809
四九〇〇六	館跡	蓬田館跡	栗原郡志波姫町大字梅ケ崎	山林	若柳		南郷にあり、標高四〇メートルほどで山頂に三段の土塁と、二段の空堀がみられる。	812
四九〇〇四	散布地	荒町遺跡	栗原郡志波姫町梅崎字北郷荒町	水田	若柳	古墳	迫川南岸の自然堤防上にある遺跡で、八坂神社の西北に当つている。ここからは須恵器壺などが出土している。	810
四九〇〇八	館跡	山王館跡	栗原郡志波姫町白幡字伊豆野大西前八の二六	山林	若柳		標高二〇メートルの独立丘陵にあり、館の遺構は判然としない。	814
四九〇〇五	古墳	城内古墳	栗原郡志波姫町白幡字伊豆野城内一六の一	畑地	若柳	古墳	城内の畑地が遺跡で、もと小さな方形墳があり、ここから採土の際、蔵手刀、勾玉などが出土した。	811
四二〇〇七	館跡	磯館跡	栗原郡若柳町下畑岡内谷川一一六	畑地	若柳		天正年間大崎氏の臣三浦左馬之丞の館跡と伝えられる。	
四二〇〇八	貝塚	原貝塚	栗原郡若柳町上畑岡字原	田・畑地	若柳	縄文晩期	敷味貝塚に近く、地形などもよくにかよつている縄文晩期の土器を出し一部貝層の部分は開田により破壊された。	64
四二〇〇九	古墳	大立横穴群	栗原郡若柳町大字畑岡字大立三四	山林	若柳	古墳	伊豆沼南東部丘陵に開口してみられる。「上畑岡大立横穴群発掘調査報告」（昭和四一年）	65
四二〇一〇	散布地	内谷川遺跡	栗原郡若柳町大字畑岡字内谷川七七	宅地	若柳	縄文	館貝塚と隣接する遺跡で縄文式土器（後期から晩期）石器など出土し、遺物も豊富である。	66

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地	地目	地図	時期	遺跡遺物の概要・文献	地図番号
四二〇一一	散布地	宝山遺跡	栗原郡若柳町大字上畑岡字峯一九	田	若柳	縄文	館貝塚北東部の高さ五～六メートルほどの小丘陵の北東部にあり、縄文式土器（中期末から後期初頭）など出土したが開田で破壊されている。	67
四二〇一二	貝塚	大畑貝塚	栗原郡若柳町大字下畑岡字大畑二〇、二一、二二、二四～二七、一〇〇～一〇六	田・一部畑地	若柳	縄文	下畑岡丘陵の北端にある貝塚で縄文式土器（中期大木一〇式）石器が出土しておったが、開田により破壊されている。	68
四二〇一三	散布地	倉沢遺跡	栗原郡若柳町有賀三田通字倉沢	畑地	若柳	縄文	有賀三田通り丘陵南東部が遺跡で、縄文式土器が出土しているが、破片が小さく時代判別できず。	83
四二〇一四	館跡	鶴ケ城跡	栗原郡若柳町有賀字山京二一七、二一八	畑・山林	若柳		丘陵上に造られた館跡で、開田により現状を変えている。大崎の家臣、菅原太郎時長の居城と伝えられる。	81
四二〇一五	館跡	軽臼館跡	栗原郡若柳町有賀字峯一七七	山林	若柳		大崎の家臣、菅原太郎時長の居城と伝えられる。鶴ケ城跡、烏見城跡とを含め別名いたどり城とも呼ばれる。	82
四二〇一六	館跡	田子屋館跡	栗原郡若柳町有賀字小館二四	山林・畑	若柳		開田によつて原形を変えている。大崎一族の居城といわれている。館主不詳。	79
四二〇一七	館跡	斐の城跡	栗原郡若柳町有賀字八幡五四	畑地	若柳		土塁、空堀があつたというが、現在は開田され原形を変えている。延喜年間藤原利仁将軍が陣営としたところと伝う。	78
四二〇一八	館跡	武鎗館跡	栗原郡若柳町有賀字武鎗	畑地	若柳		東館、西館と二つに別かれこれらには、段の形成が認められる。	77

栗駒町

金成町

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地	地目	地図	時期	遺跡遺物の概要・文献	地図番号
四三〇一二	館跡	栗原館跡	栗原郡栗駒町尾松字栗原館前	山林一部・畑地	若柳		築館方面を眼下に見下す位置にある。館は二つからなり内一つには土塁が残っている。石鏃など出るところもある。	73
四三〇一三	散布地	尾松遺跡	栗原郡栗駒町尾松西沢（通称裏ノ沢）	畑地・宅地	若柳	古墳	栗原寺跡を中心として、土師器、須恵器などが広範囲に散布している。	74
四三〇一四	散布地	泉沢A遺跡	栗原郡栗駒町姫松泉沢谷地四一	畑地	若柳	古墳	佐藤正衛氏西の畑地に土師器、須恵器の破片が少量ではあるが出土している。	70
四三〇一五	散布地	泉沢B遺跡	栗原郡栗駒町姫松泉沢谷地四一	畑地・田・山林	若柳	古墳	泉沢A遺跡の西方の低丘陵地帯を中心に、多量の須恵器と、若干の土師器の散布が認められる。開田の際須恵器の窯跡が認められたという。	69
四三〇一六	散布地	新山神社跡遺跡	栗原郡栗駒町尾松字栗原館前	田	若柳	縄文	一角に栗原寺と匹敵する新山神社跡がみられた。開田以前にはよく土器や石器類が散布していたという。	72
四八〇〇七	館跡	津久毛櫃館跡	栗原郡金成町津久毛字平形松迫九七	畑地・山林	若柳		吾妻鏡、鬼柳文書にみえる地で、付近開田の際に須恵器破片が数十点みつかった。	86
四八〇〇八	建物跡	釈迦堂跡	栗原郡金成町字畑三沢二二九	山林	若柳		旧街道より四〇メートルほど奥まったところに高さ三メートル、縦一一メートル、横九メートルの方壇があり、その西側一帯が「堂所」といわれ釈迦堂跡と伝えられる。	88
四八〇〇九	館跡	金成館跡	栗原郡金成町字飯下一二三ノ一二五	畑・田・宅地・山林	若柳		東館（とう）とも呼ばれる。近くの清浄院には古碑その他の資料が多く注目される。	84
四八〇一〇		小迫観音（おさまき）遺跡	栗原郡金成町津久毛字小迫山神七七	社地	若柳		金成耕土を望む景勝の地、南側は深い谷、北と西には土塁が二〇〇メートル余にわたって	85

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地	地目	地図	時期	遺跡遺物の概要・文献	地図番号
							つらなつており、社地内には、伝説を伴つた小沼池が多い。	
四八〇一一	館跡	大原木館跡	栗原郡金成町大堤字大原木袖山二四／二五	山林	若柳	縄文中期・晩期	大原木喜泉院の東丘山にある。長さ一〇〇メートル、巾四〇メートル二段の丘になつており、本丸、二の丸、三の丸跡の称あり、平泉藤原時代鈴木重家の居館ということから鈴木館ともいう。東麓の陣場では縄文式土器（中期、晩期）の土器を出す。	76
四八〇一二		西大寺十三塚	栗原郡金成町沢辺字西大寺一の七	山林	若柳		沢辺小学校南の丘陵尾根に国道にそつて一三塚が完全に残つている。	87
四八〇一三	経塚	有壁五輪沢遺跡	栗原郡金成町有壁字有壁熊口一二四	山林	若柳		上部を自然石で覆つた径六メートル、高さ二メートルほどのものが三基みられ経塚と思われる。その上に五輪塔が建つており、一字一石経が発見された。	
四八〇一四		蛇田山空壕跡	栗原郡金成町沢辺字荒坊二の五一	山林	若柳		蛇田山は階段状に削つて整形してありあるいは烽火台という人もある。ふもとを屯ケ岡から姉歯まで丘陵尾根づたいに東西一〇キロに渡る濠跡がみられる。ふもとの陣場から縄文土器が出土する。	75
四八〇一五	館跡	鳥見城跡	栗原郡金成町字大久保	山林	若柳		一名いたどり城ともいい、大崎の家臣菅原太郎時長の居館と伝えられる。	80
四八〇〇一	散布地	三沢遺跡	栗原郡金成町大字畑字三沢四七の一	畑地	若柳	奈良時代	上層の畑地はあらされているが深層には遺物の残存が認められる。布目瓦片、須恵器片を出す遺跡で、窯跡とも思われる。	801

あとがき

○ 東北自動車道遺跡分布調査は仙台市名取川以北について実施した。

○ この調査にあたつては、東北自動車道遺跡緊急調査対策委員の指導の下に、自動車道予定路線を中心とした一キロ幅員の地域に所在する遺跡の発見・調査に当つた。調査地域、調査担当委員、補助員名、左の通り。

仙台市　佐々木安彦
宮城町　中野　博　佐々木甚三郎
泉　町　山県一男　斎藤誠一
富谷町　小水達夫　中川良一
大和町　石垣貞二　渡辺泰伸
大衡村　伊藤富夫　新庄屋元晴
三本木町　渋谷勝麿
古川市　佐々木忠雄　佐々木茂楨
高清水町　佐藤信行
一迫町　興野義一
築館町　金野　正
志波姫町　佐藤信行
金成町　熊谷輝雄
若柳町　千葉惇昌

○ 若柳町鶴ヶ城跡(地図番号８１)、鳥見館跡(地図番号８０)、軽臼館跡(地図番号８２)、田子屋館跡(地図番号７９)、斐の城跡(地図番号７８)、武鎗館跡(地図番号７７)については位置のみ明示した。

○ 地図番号のうち一～九四番までは今回の調査により新たに発見された遺跡であり、三桁数字の番号は全国遺跡台帳作成の際の発見にかかるものである。

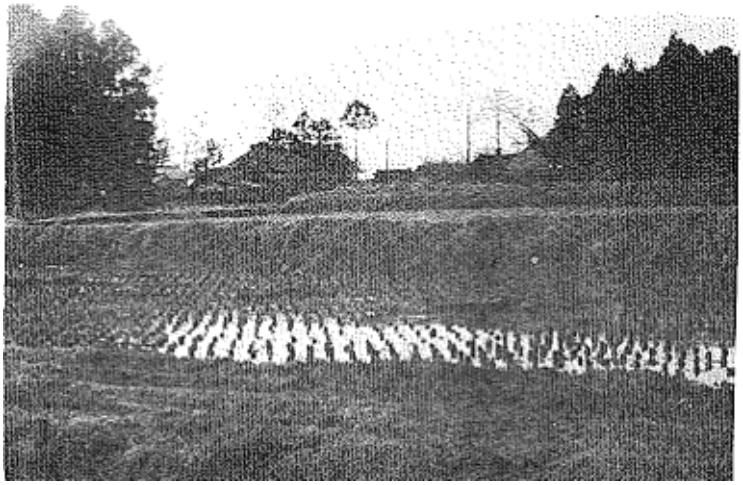
○ 今回の発見の遺跡のうち特に重視される古川市宝量社境内遺跡、杉ノ下遺跡、三輪田遺跡については別に解説した。

○ 遺跡の掲載の体裁などについては、宮城県文化財報告書第九集「宮城県遺跡地名表」昭和四一年刊にもとづいて作成し、遺跡番号なども一連の番号を付した。

東北自動車道遺跡緊急調査対策委員名簿

（昭和四二年五月二三日組織）

東北大学文学部教授	伊東信雄	（日本考古学協会員）
宮城県文化財専門委員		
元東北大学工学部教授	小倉強	
宮城県文化財専門委員		
東北大学工学部教授	佐藤巧	
宮城県文化財専門委員		
東北大学教養部教授	高橋富雄	
東北大学助教授	芹沢長介	（日本考古学協会員）
東北学院大学助教授	加藤孝	（〃）
東北大学工学部講師	坂田泉	
宮城県第二女子高校教諭	氏家和典	（〃）
塩釜女子高校教諭	後藤勝彦	（〃）
栗原郡一迫町長崎診療所長	興野義一	（〃）
東北大学助手	工藤雅樹	（〃）
郷土史家	片倉信光	



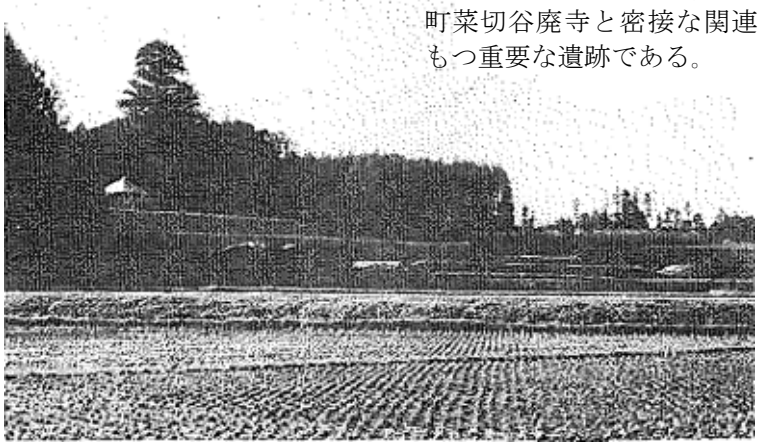
古川市伏見宝量社境内遺跡

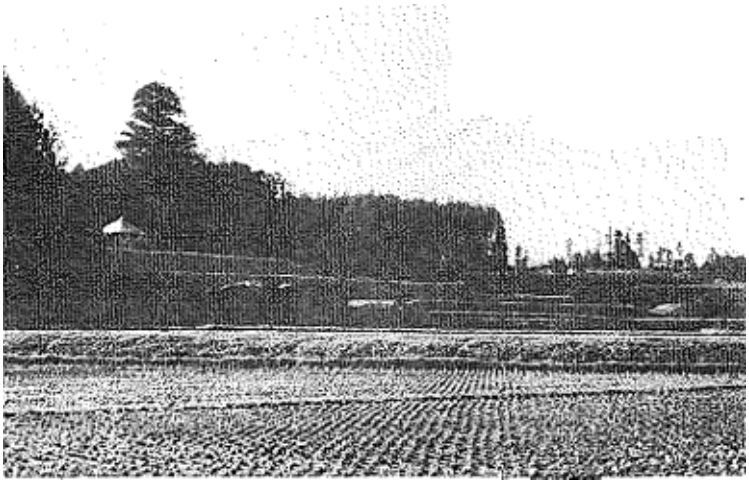
東大崎駅の南東 500m の距離にある。
最近まで土壇が残存し，重弁蓮花文鐙瓦などの古瓦が数多く出土していた。古くは，田辺希文「封内風土記」によって紹介されており，その後，鈴木省三氏は，玉造軍団の建物跡と想定し，(「史跡名勝天然記念物調査報告」第2輯，大正14年）内藤政恒教授は，玉造柵の中心地とみられた(「多賀城古瓦草創年代考」昭和29年)

伊東信雄教授による中新田町城生，同菜切谷廃寺の調査以来，前説は陰をひそめたが，ここは色麻村一の関遺跡，中新田町菜切谷廃寺と密接な関連をもつ重要な遺跡である。

古川市杉ノ下遺跡

荘厳寺境内を中心として古瓦が出土している。古瓦の中には，多賀城跡，菜切谷廃寺跡草創期の古式重弁蓮花文鐙瓦が発見されているが，奈良時代の東北経営を考える上で貴重な遺跡である。

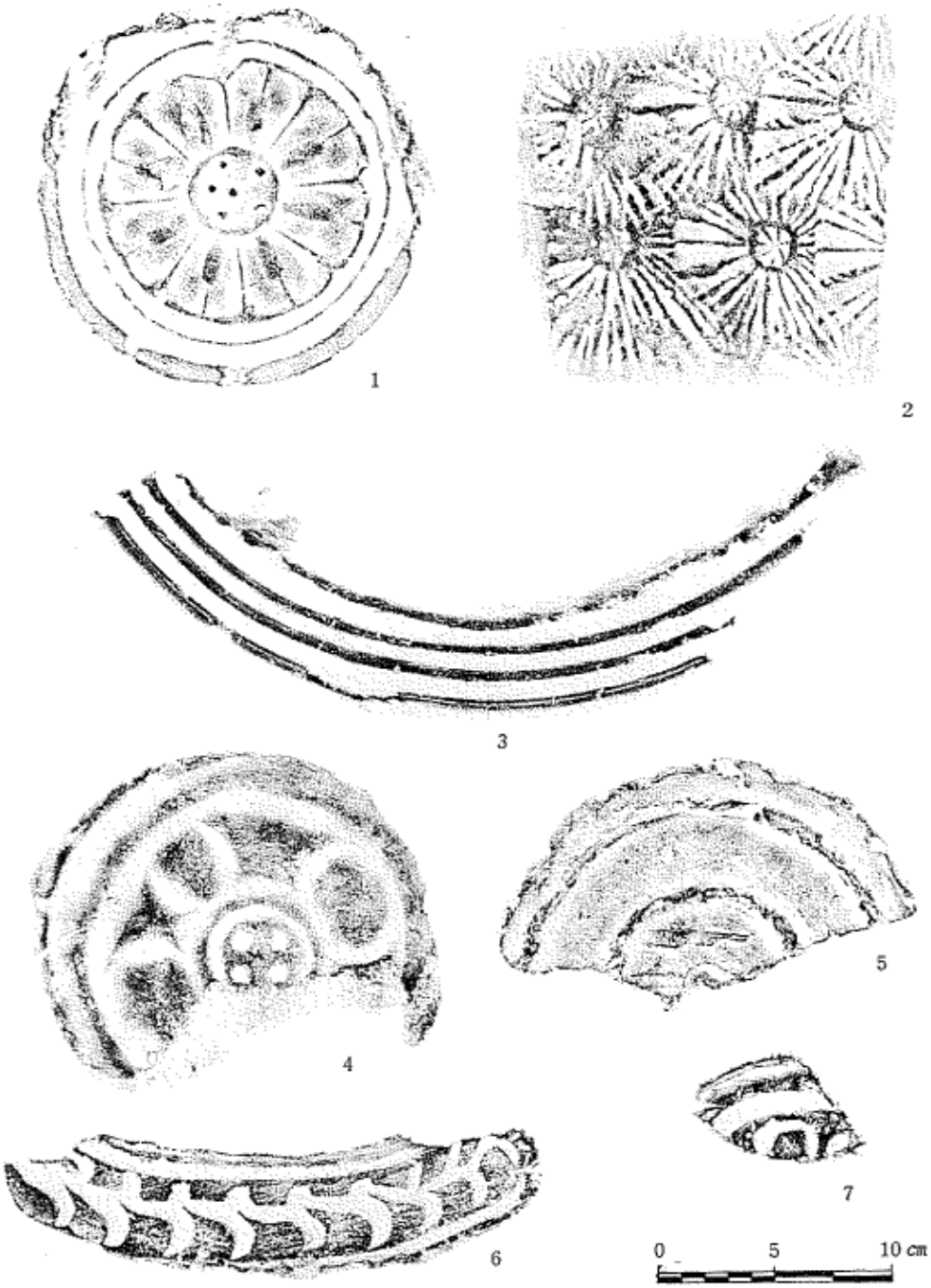


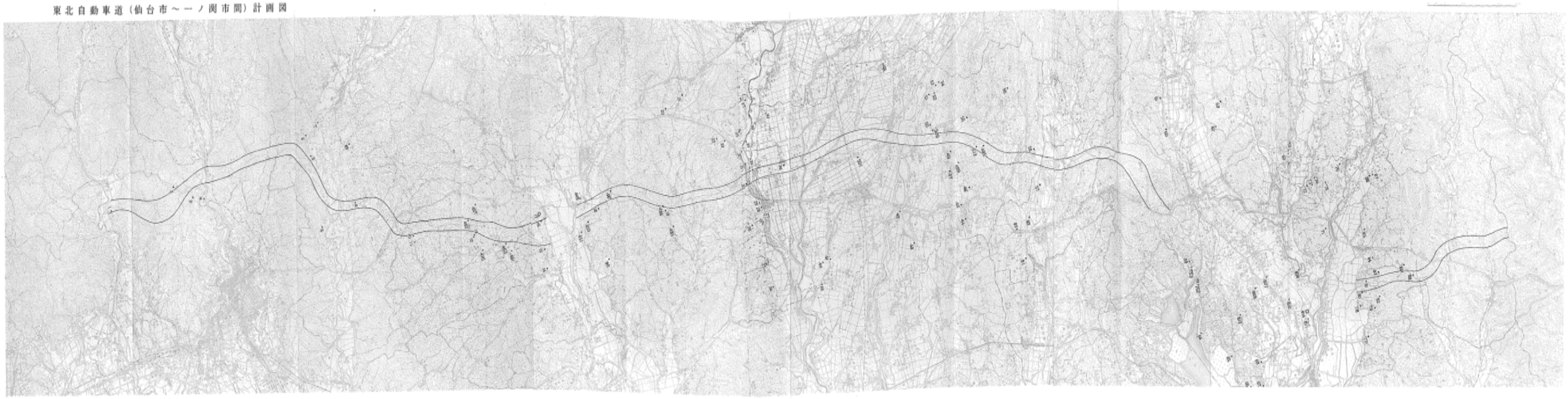


古川市三輪田遺跡

長岡丘陵の南斜面にある遺跡で安養寺跡と呼ぶ小丘があるが，ここからはやはり重弁蓮花文鐙瓦が検出される。

（佐々木茂禎報文）



1. 宝量社境内遺跡出土　単弁蓮花文鐙瓦（直径 16.2 cm），　2. 同地出土　平瓦凸面文様
3. 同地出土　四重孤文字瓦，　4. 同地出土　四弁花文鐙瓦（直径 17.3 cm）
5. 杉ノ下遺跡出土　重圏文鐙瓦（直径 18 cm），　6. 同地出土　変形唐草文字瓦
7. 三輪田遺跡出土　鐙瓦片

東北自動車道（仙台市～一ノ関市間）計画図